

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770200814		
法人名	特定非営利活動法人カオス		
事業所名	認知症対応型共同生活介護グループホームこすもす		
所在地	福島県会津若松市神指町大字黒川字湯川東228番地		
自己評価作成日	平成26年1月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク
所在地	〒970-8232 福島県いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	平成26年3月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お一人お一人の生活のリズム・出来る事を大切にし家事・レクリエーション活動を共に楽しみながら寄り添う介護を心がけている。日々の生活の中で気づいたことをカンファランスを行いケアにつなぎ、実践・検証し、計画に組み入れていっている。
 年4回季節ごとに家族を招いての行事や受診同行等家族の方の協力を得て、家族の方と一体となって入居者の方の生活を支援している。
 訪問歯科診療・訪問診療・急変時の往診等協力病院やかかりつけ医と連携し入居者の方の健康面を支えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

『家庭的雰囲気を利用者一人ひとりの生活リズムを大切に』した理念を理解した、職員同士のチームワークの良さが一人ひとりの利用者支援に活かされている。
 管理者や職員は家族の意向や目標の把握を積極的に行い、運営に反映しようとしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎年理事長方針を確認し、経営理念や行動目標を具体的に盛り込んだ年間目標を職員全員で策定している。年間目標は実践されたかどうか、職員の個人評価などから振り返る。	日々のケアの中で「今していることは理念のこういう事だ」と振り返り、確認することで理念の共有を図っている。利用者一人ひとりに添った介護支援を行なうことで理念の実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	・入居者の方の買い物同行や、地域の文化祭に参加で交流している。・事業所の広報誌や行事時に地域の民生員や運営推進会議のメンバーに配布している。	町の文化祭に作品を出品し、見学に出かけている。隣接の中学校とは職場体験やプラスバンドの演奏会に招待されるなど交流している。利用者が散歩すると地域住民が声をかけてくれたり車イスを上げてくれたりして、地域の一員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生のボランティア体験学習の受け入れ、理美容学校の生徒の実習受け入れ、介護職員初任者研修の見学受け入れなど行い認知症の方への対応を共に学び合っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	近況や課題等を報告し、頂いた意見を職員間で共有し運営やケアに活かしている。議事内容を家族の方に報告し運営やケアについての課題等理解をいただくようにしている。	会議では家族委員などからアドバイスを受けて運営に生かしている。近年多いのが防災上の提案で、避難場所の確認や避難通路の見直しを行ない、布団を使用した避難方法などを考えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問点があればその都度、市の担当者に確認をしている。大雨や大雪などの時は市の担当者から被害状況の確認の連絡を受け、繋がりを実感している。	市当局に随時、事業所広報などを届けている。認知症状の進行などで利用者家族支援の在り方などでじっくり話し合いを行ない、日頃から連携を大事にしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	行動を縛るという視点から、言葉による拘束にも留意し、ご本人の意向をうかがいながらケアを実践している。研修に参加し、身体拘束に繋がるケアになっていないか日頃のケアを振り返り、確認を行っている。	施錠は夜間のみ行っている。徘徊については同行介助を徹底して見守り対応している。研修会の勉強のQ&Aをもとに「いかがですか？」の声掛けをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について勉強会を行い、周知を図っている。本人の出来ない事柄を勧めるのも虐待であるとの認識を持ち、出来る事・出来ない事をカンファランスで確認しケアに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し、資料を基に勉強会を行った。参加できなかった職員には資料を回覧し周知を図った。日常生活の様々な場面でも、自己決定し行動する事が出来るよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文書でお知らせし、来所された時に口頭で説明している。不安や疑問点があればご理解いただけるまで説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の方の意見を日常生活の中で1対1で、又は皆さんにお伺いし意向に沿う対応を行っている。家族の方にはアンケートを依頼し、意見や要望をお伺いし運営に反映させている。その結果は運営推進会や広報誌に公開している。	花見やクリスマスなど季節ごとに年4回の行事を行って、家族に参加を要請している。6、7割の参加があり、その時に意見を聞いている。事業所内で猫を飼っているが、家族から衛生管理上のアドバイスを受けて行動エリアの限定を実施している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	週1回のミーティングは理事長代理や管理、スタッフが出席し、積極的に意見の提案が出せる機会を設けている。出された意見等については運営に反映させている。	週のミーティングではノロウイルス、インフルエンザ対策などの提案があり、チェックリストの作成で対応するなど職員意見を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人独自の自己評価表を活用し、昇進、昇給を全員に機会を与えている。一年の中で全体ミーティングの皆勤賞と金一封、さらに各事業所で一年間で一番頑張った職員への感謝状と金一封を与える機会がある。個人の目標と達成を年間計画の面接で確認し、負担を考慮しながら支援している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日常生活ケアを通して職員一人一人の力量を把握し、個々の経験・役割に応じ、外部の研修会に参加の機会を設けている。研修会参加後は法人内の勉強会で研修会でえたことを発表し知識・技術の共有化を図る一方、研修会での学びを実践に結び付けるシステムを構築している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他の事業所の職員とは、月1回の法人内勉強会や新年会等の行事を通じて交流を図っている。また、他の事業所を知る目的で、見学・実習を適宜行っている。また、グループホーム連絡協議会に参加し情報を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメント表から入居前の生活の様子等を把握し、入居時の環境の変化で混乱が生じないよう、行動や会話に留意し、訴えにはその都度お話をうかがい、カンファランスを行いながらご本人の思いに沿ったケアに繋げている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申込時や入居前の実調時に、ご家族の悩みや不安・入居後の生活に対する要望等伺いし、入居時の介護計画に取り入れている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の言葉や思いをアセスメントし、他のサービス利用が必要と判断した時には、家族の方と相談しながら他の事業者の協力を得ようとしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活リハビリを取り入れ、生活の中で実践してきたテーブル拭きや洗濯物たたみなど共に行う。さらに、職員と共にモップがけをしながら足腰の運動を取り入れながら「感謝の気持ち」を伝えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の方が来所時に生活の様子や健康状態をお話し、家族の方からもエピソードなど話していただく事でご本人との会話の幅が広がり笑顔も多くなりプラスのスパイラルとなっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が気軽に来所し、ゆったりとご本人と過ごしていただける雰囲気作りを努めている。行事の際は、お孫さん・ひ孫さんにも役割を割り振り共に楽しんでいただいている。ドライブ時はご本人の要望をうかがったり、馴染みの深い史跡に全員で出かけている。	家族や友人には飲物を提供し、訪問しやすい雰囲気づくりを行なっている。家族は月に1～2回、友人は数か月に1～2回訪れている。帰宅願望の強い時は、馴染みの場所や自宅近く・鶴ヶ城等にドライブに出かけ気分の転換を図っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の方同士の会話や表情、雰囲気などから、ホールの席を変え、その後の変化をみながら工夫をしている。いろいろな人とお話しできるよう、レクリエーション時にテーブルの位置や座る位置を変化する等の工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後の入所先に面会に行き、家族の方のお話を伺う機会などを大事にしている。逆に亡くなられた利用者のご家族が、その後も庭の手入れや除雪などのボランティアに来て下さる関係がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中の言葉や行動から、ご本人の意向を把握するよう努めている。ケアを行う時も、その都度ご本人の意向を確認し実施している。入所前より大事にされている趣味などは職員も共に学ぶ姿勢と時間の共有化を図っている。	家族から利用者のこれまでの話を聞いて生活歴を把握するようにしている。レクリエーションなどの趣味を通して、利用者本人の意向や思いの理解に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や暮らし方等入居時にお話をうかがいアセスメントシートに記録し活用しているが、時々ご本人からうかがうエピソードが、今までの暮らし方をより鮮明にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々生活のリズムを把握しながら、ケアを行っている。また、定期的にあセスメントシートで出来る事・わかる事・心身の状態をチェックし現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族に現在の状態を報告し、要望等お伺いしている。ご本人の意向は、家事活動やレクリエーション・食事の時等の行動や会話から、または直接意向をうかがいアセスメントシートを活用し、カンファランスで意見を出し合い計画を作成している。	常に本人・家族の要望と意向を確認しながら、計画を作成するようにしている。入院時や退院時などの変化があった場合は、随時に介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア実践時を含めた日々の様子をご本人の言葉を記録し、職員間で情報を共有している。気づきや工夫をした点など随時カンファランスを行い実践や介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	身体的状態に合わせた生活が送れるように福祉用具のレンタルの活用や入居者の方の重度化に合わせ勤務時間の調整又は補充などを行っている。利用者の方が家族との会話を求めても来所が困難なケースには定期的な時間を取り決め電話コールでの対応をしている。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	美容師の方の有料サービスの導入、ボランティア受け入れ、中学生のボランティア活動学習の受け入れ等地域の方の協力を得ている。買い物に同行していただく・本や日常生活に必要な物品の買い物、ドライブ等随時ご本人の要望等も受け付け楽しんでいただいている。	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の希望するかかりつけ医に受診していただいている。かかりつけ医へは直接又は報告書等で入居者の方の状態を伝え適切な医療が受けられるよう支援している。隣接するクリニックは協力病院となっており、訪問診療及び緊急時の往診など適切な診療を支援している。	主に家族が中心になって、かかりつけ医の受診支援をしている。緊急時対応では、事業所に隣接した協力医院を通じ受診支援を行なっている。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は常勤で勤務しており、体調の変化や気づき等の報告を行い指示・指導を受けている。日常生活の中のリハビリについてカンファランス時に助言を得ている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報提供をし、病院看護師との連携を図っている。入院中も頻りに面会し、看護師との連携やご本人との馴染みの関係が継続できる配慮をしている。退院時は病院医師の病状説明に家族の方了解のもとに看護師が同席し退院後の療養についてアドバイスを得ている。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、種々の症状の治療についてホームで出来る事・困難な事、を伝えそのうえで家族の方の意向を確認し治療及び介護・看護をうけていただいている。看取りについては、状況をみながら文書を持って説明し、ご家族を含めたチームで心身ともに苦痛の少ない終末期ケアを行えるよう努めている。	入居時に、事業所として対応できることできない事を説明し、打ち合わせをして方針の共有を図っている。利用者が状況変化した場合はその都度、家族と相談しながら取り組んでいる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当てや初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署で実施されている、普通救命講習や消防署の出張普通救命講習を依頼する等して職員全員が受講し知識技術の習得に努めている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所内で概ね3ヶ月に1度避難訓練を実施している。年に2回は消防署予防課の方立会いにて通報訓練や消火器取り扱い訓練等を行っている。訓練には近隣の方に呼び掛け参加していただいている。また今年度は、水害について運営推進会議時に入居者の方と共に受講した。	抜き打ちでの避難訓練や夜間を想定した避難訓練も行っている。防災ずきんの使用などを考慮している。 近隣の参加は実施されているが地元消防団との協力関係の構築も期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として、お話をさせて頂いている。日々のケアに於いてもプライバシーに配慮した声掛けを心がけている。	利用者は、お客さまであり人生の先輩であることを念頭に言葉かけを行なっている。法人や事業所の接遇マニュアルもある。事業所としては排泄時の誘導の仕方や洗濯物の干し方、入浴時のドアの開け閉めを重要視している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で職員の声掛けは、自己選択・自己決定を促す声掛けを心がけている。その時の言葉や表情、仕草・行動等からご本人の思いを汲み取るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムに合わせた食事時間や入浴時間の設定をしている。その時々のご本人の思いや体調に応じた生活が出来るよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替え時や外出時に服を選んでいただき、その人らしいお洒落への支援をしている。食べこぼし等の汚れ等はプライドに留意しながら、交換していただくよう話し、身だしなみを整える支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	お一人お一人の出来る事を活かしながら、食材を切る・米をとぐ・盛り付けをする・味見をする等食事の準備を食器洗いや食器拭き等の後片付けを、職員と一緒にして頂いている。日々の会話の中から、お好きなもの・食べたいもの等お伺いし献立に組み入れるようにしている。	食事の準備や片づけを、無理なく楽しんで行えるようにしている。誕生会など行事食では、一人ひとりの要望を聞きながら寿司や赤飯のメニューで楽しんでもらえるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量を確認している。好みや視野・姿勢・手腕の機能・咀嚼力・嚥下力等に留意し、栄養・水分が摂取できるよう、食事形態もお一人お一人のその時々状態に合わせて提供している。受診時のデータを基に不足がちな栄養素を取り入れる献立を考慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご本人の力に応じた介助を行い口腔内の清潔の保持に努めている。緑茶でうがいをお勧めし、風邪予防にも配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用しお一人お一人の排泄パターンを把握し、プライバシー等に配慮し、歩行練習や掃除の流れでトイレに案内し、トイレ動作の出来る事を確認しながら排泄の自立に向けた支援を行っている。	チェックシートによる、さりげない声掛けや仕草の変化を見逃すことなくトイレ誘導をしている。日中はリハビリパンツから布パンツになるよう自立に向けた支援を行なっている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事では乳製品や献立に野菜料理を多く取り入れる献立にしている。歩行練習やレクリエーションに体操等取り入れ、便秘予防に努めている。便秘症の方には主治医の指示により緩下剤の調整を行い排便のコントロールに努めている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の希望とタイミングをみながら入浴を勧めている。時間帯は、寒暖差の激しい朝夕を避け午後のある一定の時間にしている。	週2回、個浴で入浴を楽しんでもらえるようにしている。入浴を嫌がる人には、職員を変えたりタイミングを見計らいながら言葉かけを工夫して、入浴を勧めている。入浴が困難な人にはシャワーや清拭で対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の習慣や体調・希望に合わせて、起床・就寝、昼寝をして頂いている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報提供書を確認し、初めて処方された薬については詳しい情報を調べ職員全員で共有し、作用・副作用を合わせ症状の変化に留意している。お一人お一人の状態に応じて工夫をしながら服薬していただいている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事活動やレクリエーション活動で力を発揮していただけるよう支援している。お一人お一人の趣味を考慮し、レクリエーションに取り入れ楽しみを繋いでいる。また季節ごとの行事や年4回の家族の方と共に楽しんでいただける行事を計画し、気分の転換を図っている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買物やドライブ、散歩にお誘いし楽しんでいただいている。家族の方と、食事や墓参りなどに出かけられている。入居者の方の希望で、庭やデッキでお茶会をする等屋外で過ごしていただく時間を作り外気浴や会話を楽しんでいただいている。	一人ひとりの日々の散歩や近所のスーパーへの買い物に同行して外出支援をしている。歩行が困難な人には、サンデッキや庭の手入れなどで戸外に出て、日光浴を楽しんでもらうほか、鶴ヶ城周辺・七日町通り・桜の季節には会津大学周辺や柳津町等にドライブに出かけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望で家族の方の了解を得て、お金を所持していただいている。日用品や趣味の本を買いに出かけご自分で精算をして頂いている。食材を買いに同行していただいた時も、食べたいものを選んでいただいたり値段や大きさ、鮮度を見比べて買物を楽しんでいただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の方と打ち合わせて、時間を決めてご本人に電話を掛けていただいたり、家族の方からは、ご本人の生活パターンから時間を決めて電話を掛けていただく等ゆったりとお話いただけるよう配慮している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間の温度・湿度・光など留意し快適な環境となるよう配慮している。作業時の音は最小限にするよう気をつけて、不快感を招かないようにしている。季節ごとに飾りつけを変え、季節感を感じていただけるよう工夫している。	寄贈された桐たんすが置かれ、利用者は自宅の居間の雰囲気味わえるようにしている。廊下には利用者と職員が制作した貼り絵や行事の写真が展示されている。天窓から日光が降りそそぎ、居心地のよい共用空間づくりを行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にイスやソファを配し、一人でゆったりと過ごしていただける空間を作っている。お一人お一人の様子に気を配り、その時々に応じ気の合った方同士が談笑していただけるよう配慮をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている。	ご家族の方が飾り棚や居室内をディスプレイされ、ご本人も一緒に楽しんでいる。職員も一つ一つの物の思いを汲み取り過ごしやすい環境作りに配慮している。排泄用品は目につかない所に置き、気持ち良く過ごしていただける空間作りに配慮している。	居室入り口に、利用者個人の思い出の品や家族写真が飾り付けされている。各部屋の南側すべてにサンデッキがあり、思い思いに利用することが可能で、利用者は居心地のよい居室づくりできるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の飾り棚の扉や歯磨きセット入れの棚を色分けし分かりやすくしている。安全に移動できるよう環境を整備している。		